

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
観光事業論 Tourism Industry		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	観光ビジネス実務士必修	全学生対象 観光フィールドの学生は履修すること
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
観光学概論、ホテル業概論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
観光ビジネス実務総論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
伊藤 優子	授業中に指示します	水曜日、木曜日		授業中に指示します
授業の概要				
観光事業は社会的、文化的効果があり、地域経済の促進や国民の観光意識を高め、国際文化の交流、経済的波及効果を追及する目的で行われるさまざまな事業のことである。地域の観光振興を支える施策や観光政策を学んでいく。ニューツーリズムの取り組み、観光資源の開発、着地型観光など新しく取り組んでいる事業の理解を深める。				
授業の目標				
①観光事業の基礎を理解することができるようにする。②地域の現状を理解し、地域観光の取り組みから地域活性化に対する意識を高めることができるようにする。③新しい観光のあり方を理解し観光事業の取り組みを考えることができるようにする。				
授業の方法				
講義形式の授業を行う。配布資料とパワーポイントやDVDなどのビジュアルツールを活用する。				
学習の成果（学習成果）				
①観光事業とは、観光の開発や運営に関する観光関係者の経営活動であり、一地域にとどまらず世界中に影響を与える事業活動であることを自ら学ぶことができる。②新しい観光の取り組みの現状を学び、学生の創造力を刺激することにより、新たな観光事業を考え出すことができる。③持続可能な観光の理念を把握し、観光事業に変化を与えることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	はじめに（シラバスの内容確認、講義の目標と進め方）			
第2回目	観光事業の歴史 観光産業			
第3回目	世界遺産の現状（問題と取り組み）			
第4回目	世界遺産の事例			
第5回目	テーマパーク事業			
第6回目	テーマパークの事例			

第7回目	イベント・文化事業		
第8回目	MICE・コンベンション事業		
第9回目	ニューツーリズム		
第10回目	スポーツツーリズム・ヘルスツーリズム・ワインツーリズムほか		
第11回目	道の駅とサービスエリア		
第12回目	動物園、水族館の取り組み		
第13回目	地域の再生事業		
第14回目	着地型観光		
第15回目	観光事業のまとめ		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
	授業参加態度	20%	授業に集中し、ノートをとっている。不明なことがあれば積極的に質問する。指名されたら自分の意見を述べるなどが評価の対象となる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たす上位トップグループ。
	レポート	10%	レポート提出（実施日時は、授業中に指示します）。Sのレポートの評価：課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。
	調査報告書		
	小テスト		
	試験	50%	観光事業の現状、取り組みなどを問うものとし、記述式の試験を実施する（実施日時は、授業中に指示します）。S評価の基準：S＝90－100
	発表内容（態度含む）	20%	学んだことから自分の意見を発表する時間を設ける（実施日時は、授業中に指示します）。Sの発表内容の評価：課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。
	その他		
教科書と参考図書			
パワーポイントで講義を進めるため購入する教科書はなし			
履修上の留意点・ルール			
遅刻厳禁。私語はつつしむこと。授業途中で無断で退出厳禁。携帯電話使用禁止。飲食厳禁			